

2025年（令和七年） 4月18日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

当週(4月10日～16日)の国際石油市場は、米国の関税政策(相互関税等)の動向を中心に、対イラン経済制裁強化の動き等の要素を含め小刻みに動いたが、週明けには、OPEC・IEAが、貿易摩擦激化を理由に、需要見通しを下方修正、やや、弱含んだ。

NYのWTI原油先物市場は、10日反落の60.07ドルで始まり、11日反発、14日続騰、15日反落、16日反発の62.47ドルで終わった。

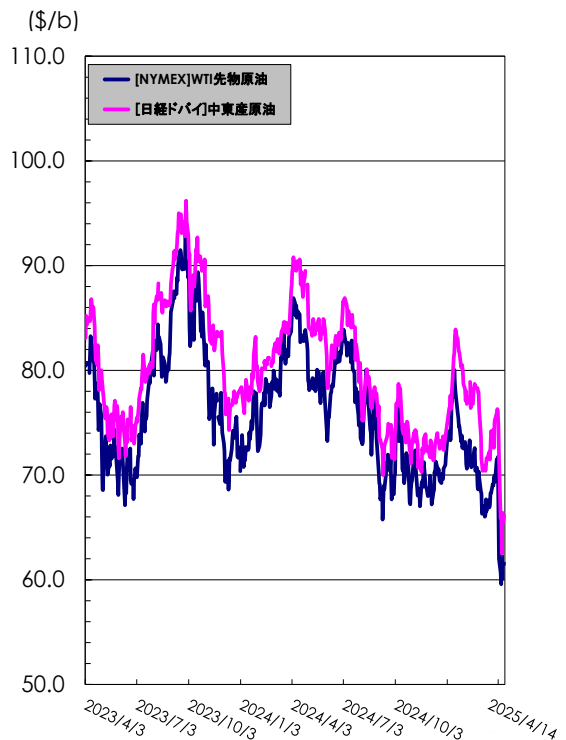
また、中東産バイ原油/東京市場(6月渡し)も、前週(4月3日～9日)は62.50～74.80ドルの範囲で推移したが、当週は、4月10日66.40ドル、11日65.50ドル、14日66.10ドル、15日66.40ドル、16日65.40ドルだった。

対ドル為替レート(TTM)は前週(4月3日～9日)145.38～147.83円の範囲で推移したが、当週は、4月10日146.91円、11日143.54円、14日143.23円、15日143.64円、16日142.93円だった。

そのような中で、4月14日時点の国内製品小売価格は、ガ

ソリンが前週比0.2円高、軽油は同0.3円高、灯油は同2円高(18リットルベース)だった。ガソリンの全国平均価格は186.5円で、過去最高値に並んだ。4月17日～23日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、0.0円(補助金がない場合の次週予想価格182.7円で、基準価格185円を割った)と、実額ベースでは前週比4.4円の減額となった。

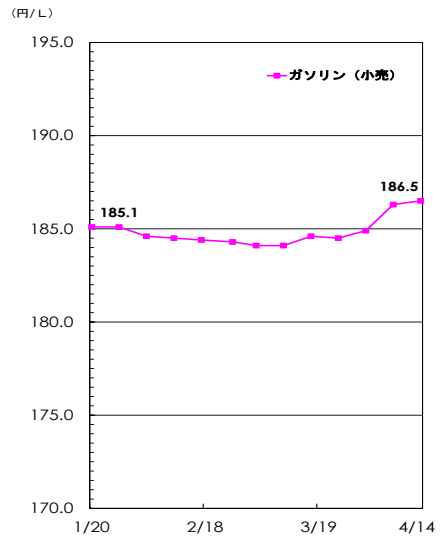
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/6～4/12	2,905 ▲96	▲-
	トッパー稼働率 (%)	"	83.9 ▲2.8	▲-
	原油在庫量 (千kl)	4/12	10,980 ▲559	▲-
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	4/14	66.10 ▲0.20	▼-23.8
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/14	61.53 ▲0.83	▼-23.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月中旬	80.07 ▲0.36	▼-3.01
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	75,242 ▼-517	▼-2,849
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	149.40 ▲1.70	▲0.04
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/14	144.23 ▲2.55	▲10.23



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	4/12	1,658 ▲ 63	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/8 ~ 4/14	89.4 ▲ 0.2	▲ 6.4
価格	(TOCOM/中部)	4/14	90.0 → 0.0	▲ 8.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/14	186.5 ▲ 0.2	▲ 11.6

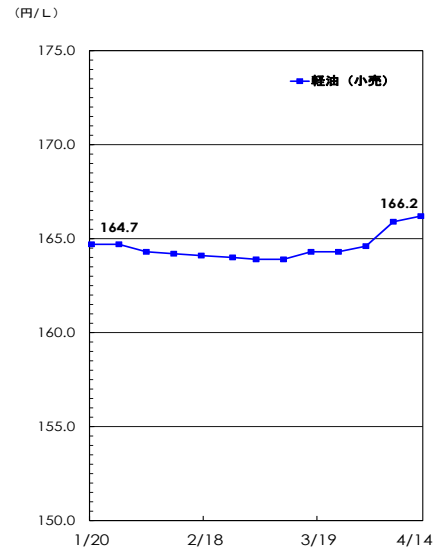
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

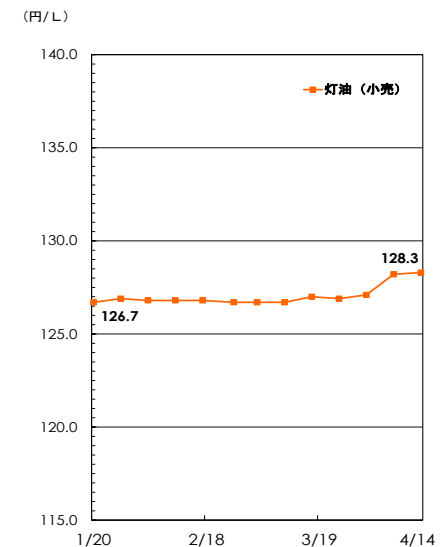
		今週	前週比	前年比
需給	在庫	4/12	1,298 ▲ 3	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/8 ~ 4/14	93.1 ▼ -1.8	▲ 8.8
価格	(TOCOM/中部)	4/14	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/14	166.2 ▲ 0.3	▲ 11.6

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	4/12	1,506 ▲ 44	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/8 ~ 4/14	89.4 ▲ 0.2	▲ 6.4
価格	(TOCOM/中部)	4/14	92.0 → 0.0	▲ 9.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/14	128.3 ▲ 0.1	▲ 11.3



## ■ 関連情報

### 1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（4月3日～9日）のNYMEX・WTI先物市場は59.58～66.95ドルの範囲で推移した。

当週、4月10日は、前日のトランプ大統領による「相互関税」の90日間停止発表にもかかわらず、中国の対米「報復関税」の発表による米中間の緊張の高まりから一転反落した。この日発表の米エネルギー情報局（EIA）が、2025年・26年の需要見通しを下方修正したことも、今後の需給緩和を示すものとして値下がり要因となった。5月物終値は、前日比2.28ドル安の60.07ドル。

週末11日も、トランプ関税の混乱が続く中、不確実性の懸念は一服、週末を控えたポジション調整、値ごろ感からの買い、株式市場の回復に伴う投資意欲回復等により、反発した。5月物終値は前日比1.43ドル高の61.50ドル。

週明け14日は、11日夜の米税関当局の相互関税から、スマートフォン・電子機器等は除外するとの発表で、関税をめぐる緊張は幾分緩和し、わずかながら続伸した。また、米エネルギー省は、対イラン核交渉が進まない場合には原油輸出禁止もありうると発言、需給を引き締めた。ただ、この日発表のOPEC月報は、2025年の対前年比世界需要の伸び予測を

130万BDと15万BD減の下方修正を行った。5月物終値は前日比0.03ドル高の61.53ドル。

15日は、米国の関税政策をめぐる不安が続く中、米中の貿易摩擦激化懸念が拡大、また、この日発表の国際エネルギー機関（IEA）月報が、2025年の世界石油需要の伸びを貿易摩擦激化に理由に前月見通しの103万BD増から73万BD増に下方修正、さらに、26年の伸びを69万BD増と予想したことから、3営業日ぶりに反落した。5月物終値は同0.20ドル安の61.33ドル。

16日は、米財務省が、イラン原油を製油する中国の製油所・輸送タンカーの制裁対象への追加を決定、また、イランのアラグチ外相が、米国との核問題交渉の前提条件を提起したことで、緊張が高まり、さらに、対外通貨に対するドル安の進行で原油先物の割安感が拡大し、反発した。なお、米国在庫情報は、原油在庫が増加したものの、製品在庫が減少し、大きな影響はなかった。5月物終値は同1.14ドル高の62.47ドル。

### 2 海外/米国石油市場

米エネルギー情報局（EIA）による4月16日発表の11日現在の米国在庫週報によると、原油在庫は前週比50万バレル増の積み増し（市場予想：50万バレル増）となったが、ガソリン在庫200万バレル減（同：160万バレル減）、中間留分在庫190万バレル減（同：120万バレル減）と、製品在庫は取り崩しとなった。

EIAによると、4月14日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比7.5セント安の1ガロン3.168ドル（120.6円/ℓ）と4週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比6.0セント安の1ガロン3.579ドル（136.2円/ℓ）と4週ぶりの値下がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、4月11日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比9基減の480基となった。

### 3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年04月06日～04月12日に休止したトッパ一能力は15.9万バレル/日で、前週に対して11.1万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は290.5万klと、前週に比べ9.6万kl増加。前年に対しては16.1万klの増加。トッパ一稼働率は83.9%と前週に対して2.8ポイントの増加、前年に対しては7.6ポイントの増加となった。

## 4 国内/製品在庫量

4月12日時点の在庫は、全油種で積み増しとなった。  
 ガソリンは165.8万kl、前週差6.3万kl増。前年に対しては4.1万kl少ない。  
 灯油は150.6万kl、前週差4.4万kl増。前年に対しては34.4万kl多い。  
 軽油は129.8万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては4.1万kl少ない。  
 A重油は72.7万kl、前週差3.4万kl増。前年に対しては7.3万kl多い。  
 C重油は169.3万kl、前週差3.6万kl増。前年に対しては12.5万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (4/12)	前週 (4/5)	前週比	
ガソリン	1,658	1,595	▲ 63	(4%)
ジェット燃料	662	654	▲ 8	(1%)
灯油	1,506	1,462	▲ 44	(3%)
軽油	1,298	1,295	▲ 3	(0%)
A重油	727	693	▲ 34	(5%)
C重油	1,693	1,657	▲ 36	(2%)
合計	7,544	7,356	▲ 188	(2.6%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

4月8日～14日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替レートも円高で、元売会社の卸建値は値下げされたものと見られる。4/17からの補助金はゼロとなるが、実質卸価格は値下がりとなる模様。

## 6 国内/製品小売価格

4月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の186.5円、軽油は同0.3円高の166.2円、灯油は18%ベースで同2円高の128.3円(1%ベースでも0.1円高の128.3円)。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油も3週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが28道府県、横ばいが6県、値下がり13都県だった。全国最安値は埼玉県の181.1円、その次は愛知県の181.6円であった。他方、最高値は鹿児島県の196.2円。最も値上がりしたのは鹿児島県(同1.7円高)、値下がりは佐賀県(同1.1円安)だった。

次回調査時(4/21)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/14)	前週 (4/7)	前週比	直近高値
レギュラー	186.5	186.3	▲ 0.2	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	128.3	128.2	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	166.2	165.9	▲ 0.3	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

小売価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2025第4号) の公表は、4/25 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。